

「農作業労働力状況調査」の集計結果について

令和2年 2月
総合対策室

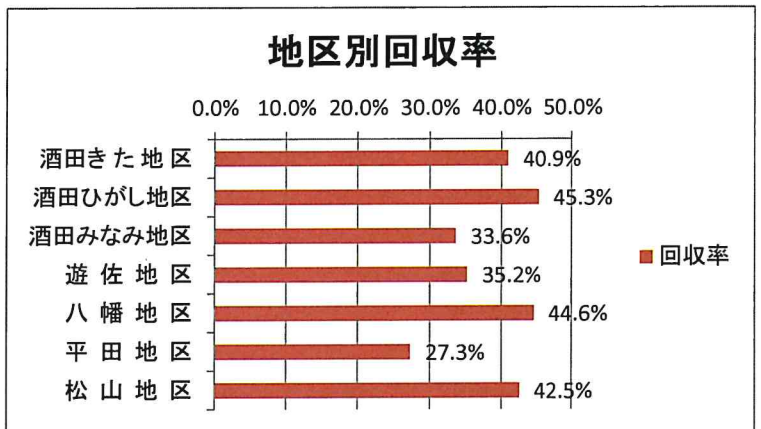
標記調査の集計結果について、下記のとおりご報告を致します。

1. 調査の目的：

農業就業者の減少や担い手の高齢化等が進行するなか、農繁期における労働力不足は、水稻、園芸問わず顕在化してきており、大きな問題となっている。今後、当JAが労働力確保に向けた仕組みづくり（事業）に取り組むため、生産農家の労働力の実態と、どのような労働力を望んでいるのかなどの状況調査を実施した。

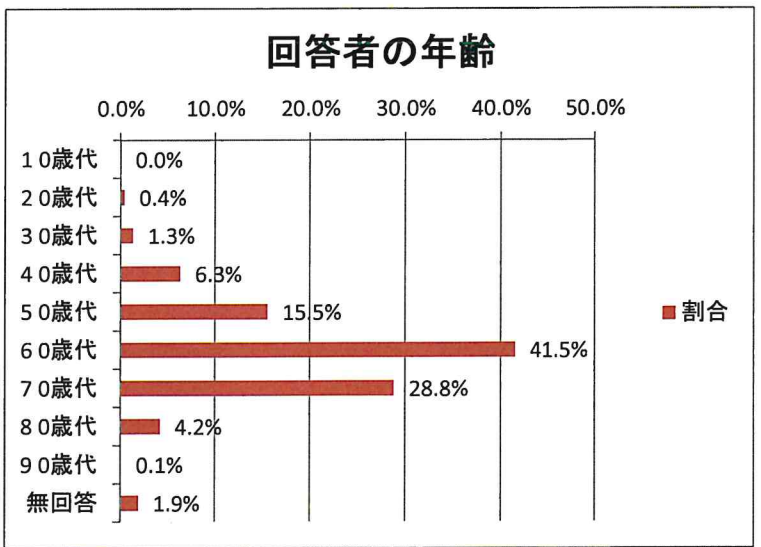
- 2. 実施期間：令和2年1月10日～24日
- 3. 調査対象：管内 水稻及び園芸生産農家
- 4. 調査票配布数：4,018件
- 5. 調査票回収件数：1,515件（回収率37.7%）
- 6. 地区別回収件数(率)

地区名	回収件数	回収率
酒田きた地区	282	40.9%
酒田ひがし地区	267	45.3%
酒田みなみ地区	215	33.6%
遊佐地区	362	35.2%
八幡地区	156	44.6%
平田地区	131	27.3%
松山地区	102	42.5%
計	1,515	37.7%



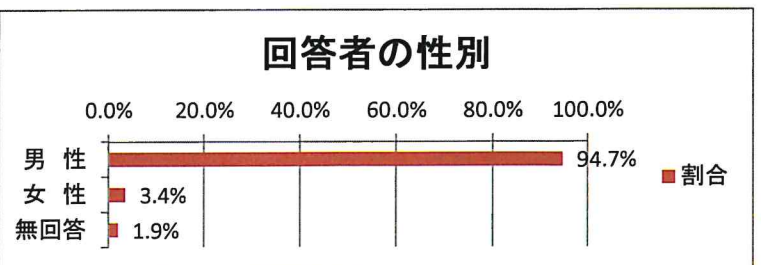
7. 回答者の年齢

年齢	件数	割合
10歳代	0	0.0%
20歳代	6	0.4%
30歳代	20	1.3%
40歳代	96	6.3%
50歳代	235	15.5%
60歳代	629	41.5%
70歳代	437	28.8%
80歳代	63	4.2%
90歳代	1	0.1%
無回答	28	1.9%
計	1,515	100.0%



8. 回答者の性別

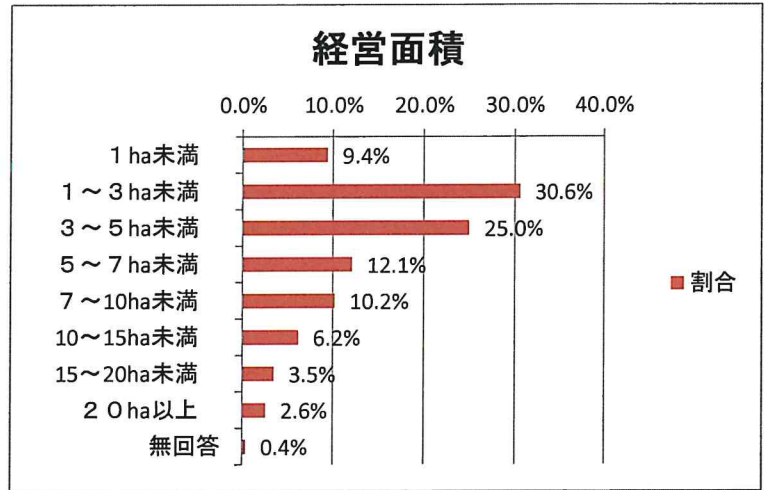
性別	件数	割合
男性	1,435	94.7%
女性	52	3.4%
無回答	28	1.9%
計	1,515	100.0%



9. 回答集計結果

(問1) あなたの経営面積は次のどれですか

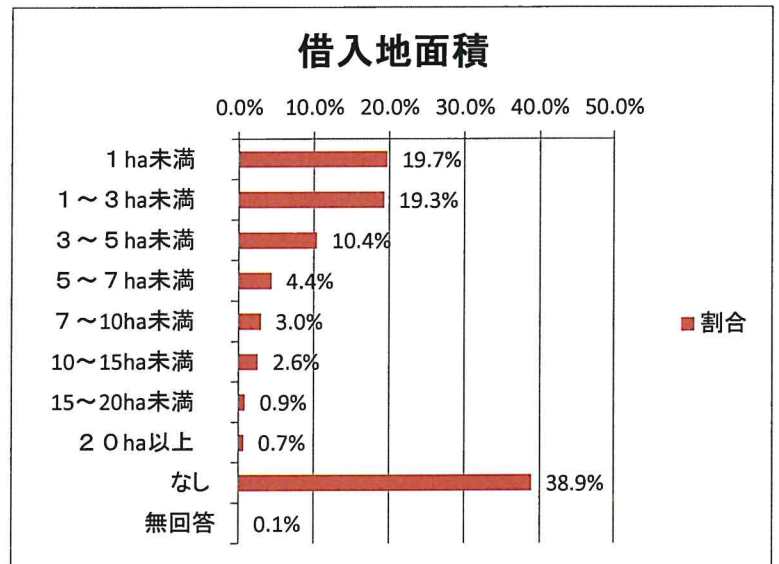
経営面積	件数	割合
1ha未満	143	9.4%
1～3ha未満	463	30.6%
3～5ha未満	379	25.0%
5～7ha未満	184	12.1%
7～10ha未満	155	10.2%
10～15ha未満	94	6.2%
15～20ha未満	53	3.5%
20ha以上	39	2.6%
無回答	5	0.4%
計	1,515	100.0%



➤ 回答者の経営面積は、1～3ha未満（30.6%）が最も多く、次いで3～5ha未満（25.0%）が多い。面積の幅を広げた場合、1～5ha未満（65.0%）、5～10ha未満（22.3%）、10～20ha以上（12.3%）となっている。

(問2) 問1の経営面積の内、「借入地」の面積は次のどれですか

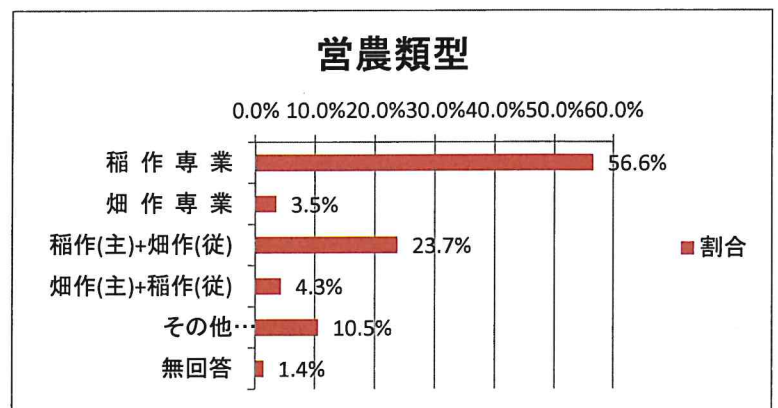
借入地の面積	件数	割合
1ha未満	298	19.7%
1～3ha未満	292	19.3%
3～5ha未満	157	10.4%
5～7ha未満	67	4.4%
7～10ha未満	46	3.0%
10～15ha未満	39	2.6%
15～20ha未満	13	0.9%
20ha以上	10	0.7%
なし	590	38.9%
無回答	3	0.1%
計	1,515	100.0%



➤ 経営面積の内の借入地は、1ha未満（19.7%）、1～3ha未満（19.3%）が多く、次いで3～5ha未満（10.4%）が多い。借入地なしが（38.9%）で、4割近くは自作地での経営の様様。

(問3) あなたの営農類型は次のどれですか

営農類型	件数	割合
稲作専業	858	56.6%
畑作専業	53	3.5%
稲作 ^(主) +畑作 ^(従)	359	23.7%
畑作 ^(主) +稲作 ^(従)	65	4.3%
その他 (兼業、稲+畜他)	159	10.5%
無回答	21	1.4%
計	1,515	100.0%



➤ 営農類型は、稲作専業（56.6%）が最も多く、稲作(主)+畑作(従)（23.7%）を加えると約8割が稲作主体の経営の状況。一方、畑作専業（3.5%）と畑作(主)+稲作(従)（4.3%）を加えると約1割弱の状況。

(問4) あなたの農業経営に従事している方

(年間150日以上)あなたを含め何人いますか

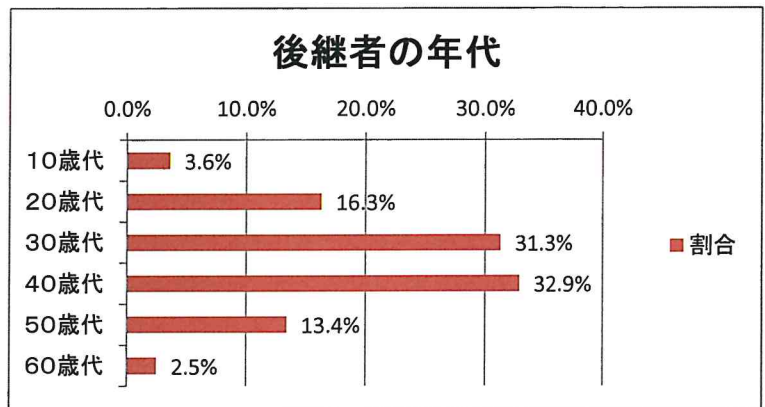
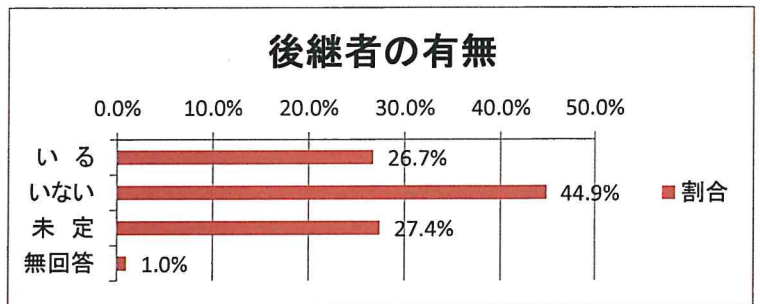
平均人数	1.6人
------	------

(問5) あなたの農業経営に後継者はいますか

後継者の有無	件数	割合
いる	405	26.7%
いない	680	44.9%
未定	415	27.4%
無回答	15	1.0%
計	1,515	100.0%

後継者のいる方で、年代はどれですか

後継者の年代	件数	割合
10歳代	16	3.6%
20歳代	72	16.3%
30歳代	138	31.3%
40歳代	145	32.9%
50歳代	59	13.4%
60歳代	11	2.5%
計	441	100.0%

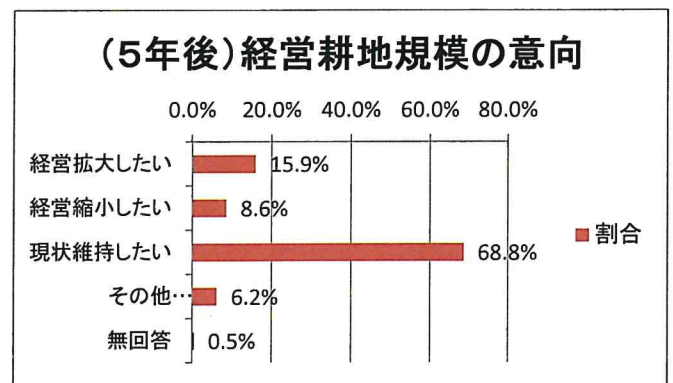


> 後継者は、いない (44.9%) が半数近くの状況となっており、いる (26.7%) を約1.7倍上回っている。後継者は27.4%が未定の状況。後継者の年代は、40歳代 (32.9%)、30歳代 (31.3%) と合わせて約6.4割と多く、10~20歳代が約2割、50~60歳代が約1.6割の状況。

(問6) あなたの5年後の経営耕地規模について

どのようにお考えですか

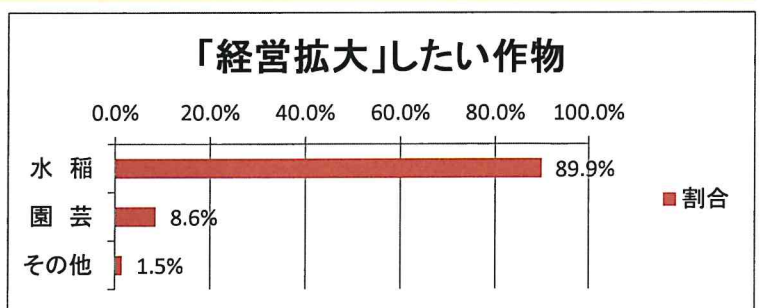
経営耕地規模の意向	件数	割合	(平均面積)
経営拡大したい	241	15.9%	(10.1ha)
経営縮小したい	131	8.6%	(2.6ha)
現状維持したい	1,043	68.8%	
その他 (委託、離農 他)	94	6.2%	
無回答	6	0.5%	
計	1,515	100.0%	



> 経営耕地規模は、現状維持したい (68.8%) が最も多く、現状維持の意向が強い。

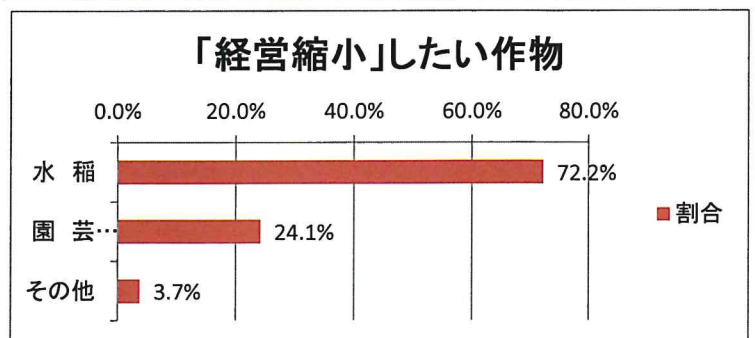
(問7-1) 問6で「経営拡大したい」作物は
どれですか (※複数回答可)

経営拡大	件数	割合
水 稻	231	89.9%
園 芸	22	8.6%
その他	4	1.5%
計	257	100.0%



(問7-2) 問6で「経営縮小したい」作物は
どれですか (※複数回答可)

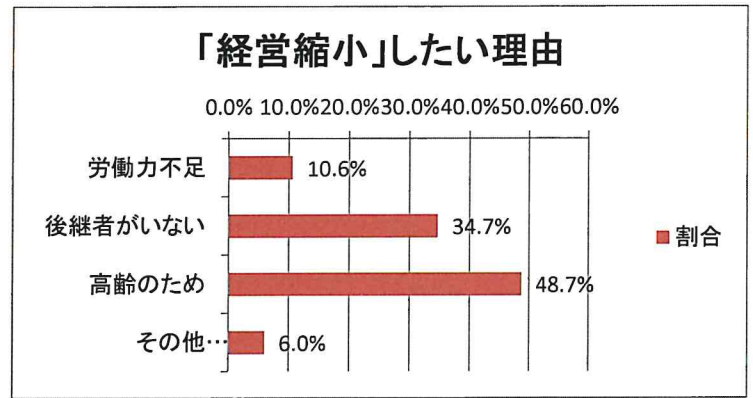
経営縮小	件数	割合
水 稻	78	72.2%
園 芸 (メロン、柿 他)	26	24.1%
その他	4	3.7%
計	108	100.0%



➤ 経営の拡大・縮小について、水稲は拡大（89.9%）が縮小（72.2%）を上回り、やや拡大意向があると見られるが、園芸については、縮小（24.1%）が拡大（8.6%）を上回り、経営の縮小意向が見られる。

（問8）問6で「経営縮小したい」とお答えの方の縮小したい理由はどれですか（※複数回答可）

経営縮小の理由	件数	割合
労働力不足	25	10.6%
後継者がいない	82	34.7%
高齢のため	115	48.7%
その他 (離農意向 他)	14	6.0%
計	236	100.0%

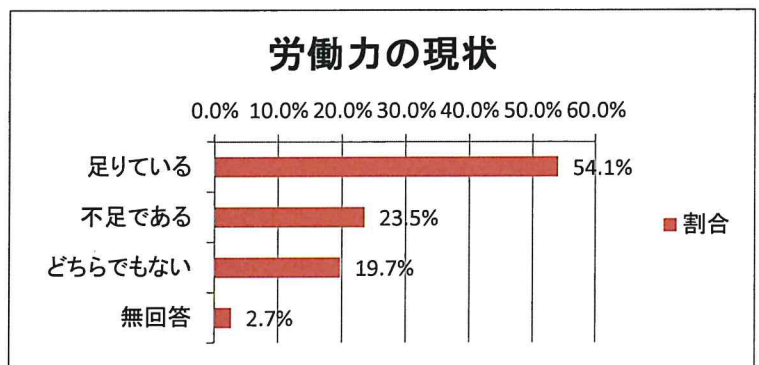


➤ 経営縮小意向の理由は、高齢のため（48.7%）が約半数となっている。次いで、後継者がいない（34.7%）となっている。高齢化、後継者不足により、経営を縮小せざるを得ない状況がある模様。

（問9）現在の労働力の状況について

労働力は足りていますか、不足ですか

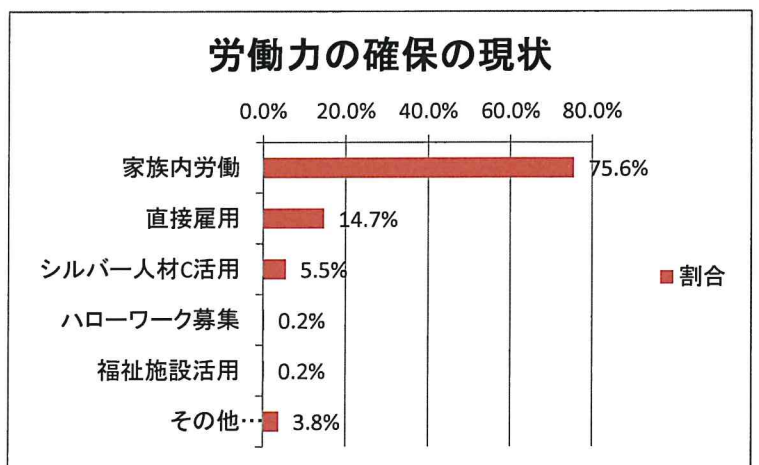
労働力の現状	件数	割合
足りている	820	54.1%
不足である	356	23.5%
どちらでもない	299	19.7%
無回答	40	2.7%
計	1,515	100.0%



➤ 現在の労働力は、足りている（54.1%）が半数強となっており、不足である（23.5%）を約2倍上回っている。

（問10）問9で労働力が「足りている」方は、どのように確保していますか（※複数回答可）

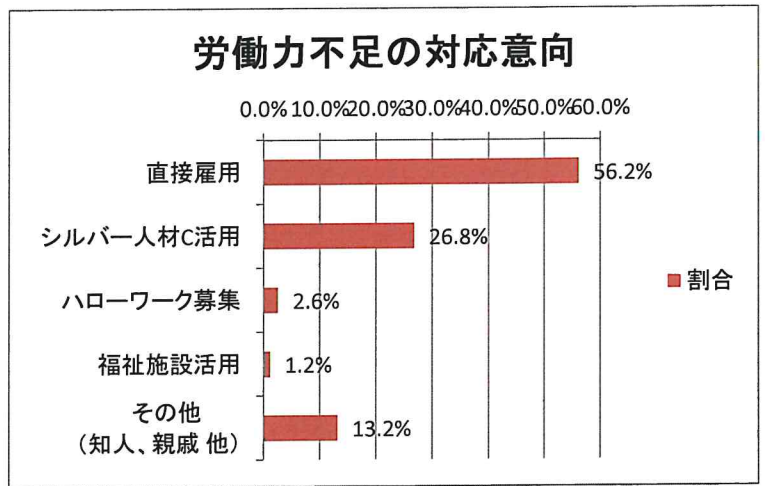
労働力確保の現状	件数	割合
家族内労働	744	75.6%
直接雇用	145	14.7%
シルバー人材C活用	54	5.5%
ハローワーク募集	2	0.2%
福祉施設活用	2	0.2%
その他 (共同作業 他)	37	3.8%
計	984	100.0%



➤ 現在の労働力は、家族内労働（75.6%）が7割強の状況で、直接雇用やシルバー人材Cの活用を行っているケースは合せて約2割の状況。

(問11) 問9で労働力が「不足である」方は、
どのように確保したいとお考えですか
(※複数回答可)

労働力不足の対応	件数	割合
直接雇用	235	56.2%
シルバー人材C活用	112	26.8%
ハローワーク募集	11	2.6%
福祉施設活用	5	1.2%
その他 (知人、親戚 他)	55	13.2%
計	418	100.0%

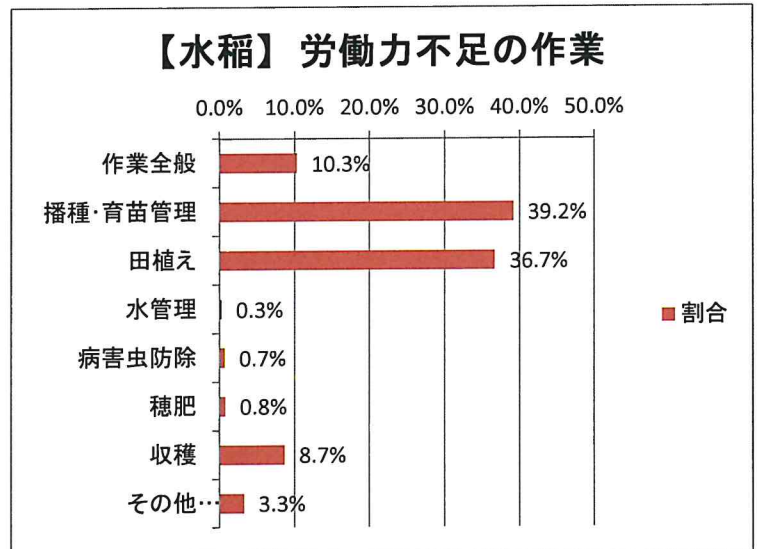


➤ 労働力不足の対応意向として、直接雇用（56.2%）が最も多く、次にシルバー人材C活用（26.8%）が多い。その他として、知人や親戚等に依頼するが13.2%あった。一方、ハローワークや福祉施設の活用意向は少ない傾向にある。

(問12) 問9で労働力が「不足である」方は、
どの作業が不足で手伝ってもらいたいですか
(※複数回答可)

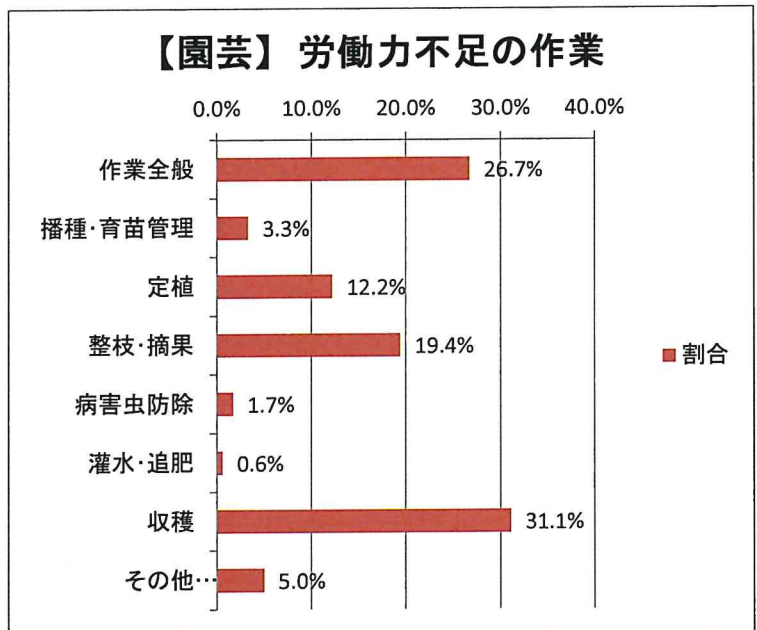
【水 稲】

労働力不足の作業	件数	割合
作業全般	62	10.3%
播種・育苗管理	235	39.2%
田植え	220	36.7%
水管理	2	0.3%
病虫害防除	4	0.7%
穂肥	5	0.8%
収穫	52	8.7%
その他 (草刈、耕起代掻 他)	20	3.3%
計	600	100.0%



【園 芸】

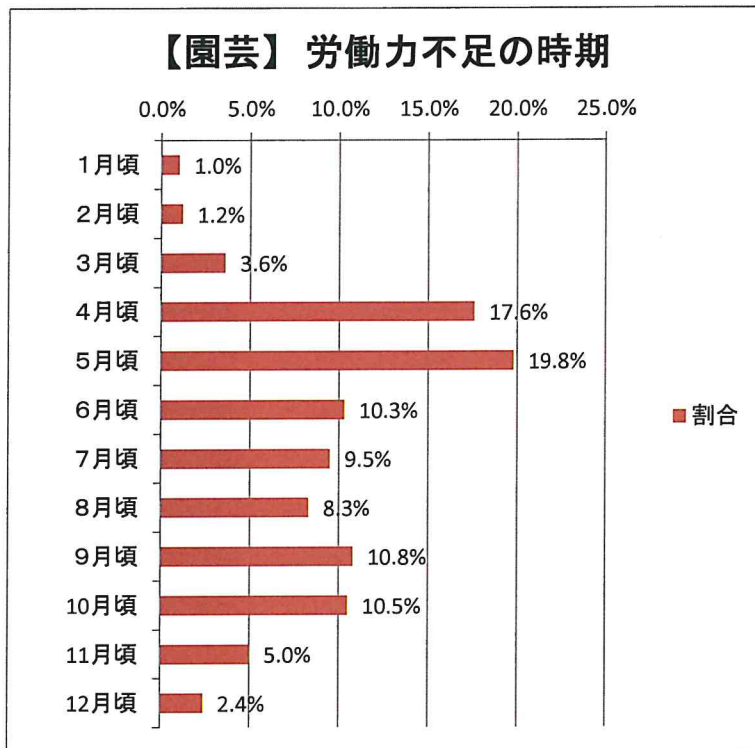
労働力不足の作業	件数	割合
作業全般	48	26.7%
播種・育苗管理	6	3.3%
定植	22	12.2%
整枝・摘果	35	19.4%
病虫害防除	3	1.7%
灌水・追肥	1	0.6%
収穫	56	31.1%
その他 (草刈、受粉、ハウス ビニール掛け 他)	9	5.0%
計	180	100.0%



➤ 労働力が不足し手伝いの必要な作業で、水稲では、播種・育苗管理（39.2%）、田植え（36.7%）と合わせて約7.6割を占め、人手が多く必要な作業となっている。一方園芸では、手作業に依存している品目が多く、収穫作業（31.1%）や作業全般（26.7%）での要望が多い。また、定植（12.2%）や整枝・摘果（19.4%）など、専門的技術を持つ労働力（作業員）の要望も高くなっている。

(問13) 問12の【園芸】で労働力が不足し、手伝ってもらいたい「時期」はいつですか
(※複数回答可)

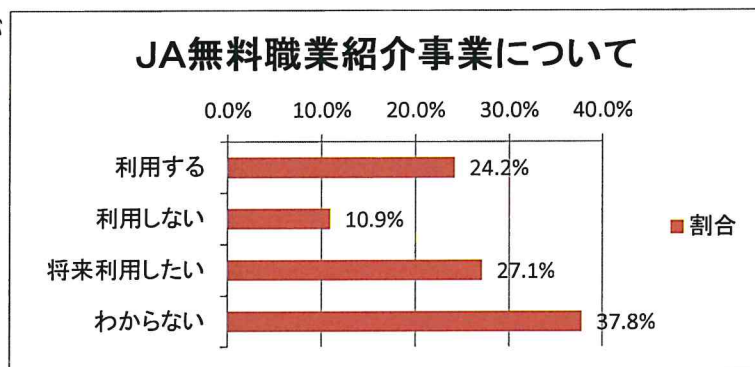
労働力不足の時期	件数	割合
1月頃	6	1.0%
2月頃	7	1.2%
3月頃	21	3.6%
4月頃	102	17.6%
5月頃	115	19.8%
6月頃	60	10.3%
7月頃	55	9.5%
8月頃	48	8.3%
9月頃	63	10.8%
10月頃	61	10.5%
11月頃	29	5.0%
12月頃	14	2.4%
計	581	100.0%



> 園芸において労働力が不足し手伝いの必要な時期は、4月（17.6%）、5月（19.8%）とメロン等の定植、整枝作業の時期が最も多い。6～8月頃はメロン等果菜類の収穫作業、9～10月頃は梨・柿等果樹の収穫作業において手伝いが必要の様様。

(問14) JA無料職業紹介事業を検討していますが
このような事業があった場合、利用しますか

JA無料職業紹介事業	件数	割合
利用する	367	24.2%
利用しない	165	10.9%
将来利用したい	411	27.1%
わからない	572	37.8%
計	1,515	100.0%



> 当該事業の利用については、わからない（37.8%）が最も多いが、利用する（24.2%）と将来利用したい（27.1%）を合すると、約半数は事業への期待が高い。

10. 回答集計結果について（要約）

今回の調査では、1,515件の多数の回答を頂き、農作業の現状や労働力の実態など、多くの「生の声」を伺うことが出来ました。

将来の経営規模については、現状維持の意向が多く、水稻に関しては、やや拡大の意向があるものの、園芸に関しては、縮小の意向が拡大を上回り、高齢のためや後継者がいないなど、経営を縮小せざるを得ない状況がある模様です。

一方、農作業における労働力の多くは、家族内の労働力で充足しており、不足する場合は、直接雇用やシルバー人材センターの活用、知人や親戚等に依頼する意向ですが、ハローワークや福祉施設の活用は少ない傾向にありました。

また、労働力不足により手伝いが必要な作業については、水稻では人手が多く必要な「播種」や「田植え」が上位を占め、手作業に依存している品目が多い園芸では、「収穫作業」や「作業全般」での要望が多くありました。また、4～5月頃にメロン等の定植や整枝、摘果など、専門的技術を持つ労働力（作業員）の要望も多い傾向がありました。

このような農繁期における労働力不足の一助として、当JAが今後検討しています「JA無料職業紹介事業」の利用希望については、利用する、将来利用したいが約半数を占め、事業に対する期待が高いものと考えます。